無断転載禁止

国際鍼灸学会の裏窓

森　秀太郎

ジョン、ガンサー張りに「国際鍼灸学会の内幕」といきたい所だが、ガンサー程に外国語に堪能なわけでない、せいぜい日本語が少し解る位だから裏窓位しか書けないのが残念である

何ごとも、表と裏がある、「よかつた、よかつた」と賞めるものもあれば「何とつまらない失敗ではないか」とけなすものもある、物事の評価ほど難しいものはない。まして現在だけでなく将来も含めてということになれば、単的に善悪など決められるものではない。

まして骨身をけづつて学会の運営に当つた方達には何をおいても「本当によかつたね」というのが礼儀であるが、楽屋内から拍手喝采も芸がなさすぎる。思いつくまゝに裏窓の記を書いて見たがお怒りにならないようにお願いし度い。

—学会の目的は？—

今回の学会の目的を端的に示すと次のようなことが挙げられる。

1、現時点における世界各国の針灸の普及状態並に研究のもようを、国際針灸学会を開くことによつて知ることができる。

2、中華人民共和国の中西医学合作即ち西洋医学と東洋医学に如何なる形で融合して発表しているか、また急速な発表を伝えられる鍼灸の研究業跡をこの眼で確かめる。

3、西欧とくに、ドイツ、フランスなどの針灸研究並に臨床を知ることが出来る。

4、最近話題をさらつた、朝鮮人民共和国の金鳳漢教授の「経絡系統に関する研究」さらに発展して「サンアル学説」なるもの金教授より直接に聞くことができる。

5、世界中の針灸研究家、学者、医師等を集めることによつて、日陰におかれている日本の針灸の認識を、一挙に改めること。

6、その他いろいろ

以上のような目的を充分果し得たかどうかによつて本学会の成果が決定されるのではないかと思う。

—世界の鍼灸—

世界に針灸治療を研究したり或は実際に臨床を行つている国はいか程あるだろうか、一説によれば六十ケ国以上といゝ他説によればせいぜい十ケ国位というものもいる。

今回最も多数来日したのはフランスで約四十名近く出席した。次いで多いのはドイツであつたが開幕寸前に欠席となり（理由は国際事情により）わずかに二名となつた。

ついでイギリス、ギリシヤ、アメリカ、ソビエト、アルゼンチン、香港、メキシコなど約百名近くの外国人が出席し、公称、十九ケ国の代表が出席した。これは最低数の線の倍近くの出席国であり最高数の三分の一ということで、まづまづの出席率といえる。

史上はじめての国際会議とすれば良くも出席したものといえる。

さて問題はどのような人達が出席されたかという質の問題になるが、すべての外国人が医師でなかつたことは当然のこととは云え、いさゝか悲感せざるを得ない。前からアメリカやフランスには医師が鍼灸をやつていると聞かされていたが実際はそうでないことが、此の度の学会ではつきりと分つた。即ちカイロプラクタ「指圧師」オステオパシー、などの非医師の方が熱心に鍼灸をやつていることである、

燃し、反面研究内容の非常に勝れた医師も多数出席された、例えば、アルゼンチンのスッシユマン博士、ギリシヤのトランガス博士、ソビエトのチコチンスカヤ博士などなか〳〵どうして深い医学知識とするどい鍼灸医学の研究には、深く敬意を表さねばならない。概括して見て外国の針灸事情はやはり日本、中国をのぞけば之に比較し得る程には未だ発展していないということになる。日本の針灸のために意を強くしたが、反面いささかさびしい気もした。

このコンテンツは株式会社医道の日本社、著者が有しており、日本の著作権法および著作権に関する国際法によって保護されています。
営利・非営利にかかわらず、複製、複写、コピー、販売、その他の再利用を固く禁じます

無断転載禁止

—中国の不参加—

台湾における中国針灸師会には甚だ義理が悪かつたが、ひたすらに台湾代表の来日を拒否して、北京の中国にはひくつと思われる位再三再四参加の要請を続けたが結果的には不成功に終つた。

中国の不参加については、五月頃より各方面から不参加のうわさが流れはじめ、執行部も相当気をもんでいたようである。

大阪でも早くから日中友好協会を通じて参加についての努力を行つたが考慮中の一点張りで真意をつかむことができなかつた。

原因についてはいろ〳〵取沙汰されているが、いづれも憶測にすぎず、理由は中国自身にあるので知るよしもない。

最も期待をかけ、準備の大半を中国代表のために用意していたことを考えると残念でならない。ぎり〳〵まで決定を見なかつた事は、来日の意志充分であつたが何かの事情で止むを得なかつたものと善意に考え、今後機会があれば是非来日されること願つて止まない次第である、期待が大きかつただけに、中国の不参加はどれだけ我々を悲しませたか解らない。

—フランスとソ連—

中国の不参加を補うものにフランス代表の多数の参加とソ連代表の参加を挙げることができる。

最初から出席を予定していた、フランス針術協会会長ジャンジレー博士が奥様の病気のため来日できなくなり、理事長のチモブスキー氏が全員を引きつれて来日し、独特のユーモアーぶりを発揮して学会の人気者となつた事は記念すべきことである。

学会の舞台裏のかけ引きも堂に入つたもので、すこし都合が悪くなると、私はフランスの代表だけでなく、ヨーロッパ二十七ケ国の国際針灸学会の代表であると称して会議をリードした事は甚だ面白かつた、予想通り鍼灸に関してはフランスが西欧諸国をリードしているように見える。

ソ連は開会一ヶ月前位に急に出席通知がきたもので、チコチンスカヤ博士のいうには早くから決定していればも少し研究資料をとゝのえて来日できたのにと残念がつていた。鍼灸をやりはじめてから六ケ年にしかならないといつていたが、さすがに個人でなく、国命で来ただけあつて、研究内容も勝れており、優秀な通訳も身近かにおいて、克明に発表をメモしていたのには、いさゝか驚かされた、殊に大阪では、阪大の神経研究の見学を希望し、阪大の先生方と討論した事や、鍼灸学会のあり方についてデスカッションの場が悪かつた事を残念がつていたことなど、将来鍼灸が最も発展するのはソ連ではないかという感じさえし

このコンテンツは株式会社医道の日本社、著者が有しており、日本の著作権法および著作権に関する国際法によって保護されています。
営利・非営利にかかわらず、複製、複写、コピー、販売、その他の再利用を固く禁じます